

私は亜細亜友之会外語学院の2020年7月生の喬慕凡です。両親の勧めで、私は大学院受験に何度か失敗した後、学業を続けるために日本留学を選びました。しかし、新型コロナウイルス感染症の流行により、来日は何度か挫折したり延期になったりしましたが、2020年11月にやっと無事来日し亜細亜友之会外語学院で勉強することができました。日本に来る前に長い間中国で過ごしていたので、ある程度の日本語の基礎ができたと思われるかもしれませんが、実際、日本に来るまでの私の日本語レベルはほぼ0で、五十音図くらい覚えるのがやっとでした。同じ時期に学校の寮にいたルームメイトの中にはN2に合格した人もいますし、N1に合格した人もいます。その時期は私もとても落ち込んで劣等感を感じましたが、基礎から学ぶしかありませんでした。「みんなの日本語」から現在の「越境」まで、一番基礎の午後Kクラスから現在の院進Aクラスまで、私の日本語レベルはゼロ基礎から現在のN1レベルまで進歩しましたが、先生のお陰です。語学学校に来た初日、大量の読解問題を前にしてパニックと不安になったことを今でも覚えています。しかし、今では読解問題に対して自信を持っています。

しかし、読解がよいだけでは不十分であり、亜細亜友之会外語学院の先生方が積極的に生徒に話しかけ、生徒の日本語能力を向上させます。この日本語会話を毎日練習することは、日本での留学生活において非常に重要です。しかし、日本語学校が言語だけを教えていると、生徒は日本社会の間に対する認識が薄くなる可能性があります。大澤先生は、授業内容として、科学研究から時事問題、政治、社会問題まで、さまざまな内容を用意しました。この日本社会の明るい面だけでなく、この社会の問題点も含めて、より包括的に我々学生に教えました。

私が日本語学校で勉強するのは、日本語を学ぶためだけではなく、大学院へ進学する為でもある。しかし、日本語の基礎が乏しかったため、同じクラスの学生が次々と名門校に合格していく中、私は途方に暮れていました。大澤先生は、私の大学の専攻と英語の成績を聞いた後、高等数学、線形代数、熱力学、材料力学など、関連する参考書を私に勧めてくれました。日本で学んだことは中国で学んだこととは異なる部分もあり、教材はすべて日本語なので、私にとっては大きな挑戦でした。しかし、私は一冊ずつ読むしかありませんでした。先生も私の専攻に基づいて学校を勧めてくれて、最終的にはいくつかの学校に出願することで方向性を決めました。大澤先生は、私が各教授に送る予定のメールを直してくださいましたし、語学試験成績も用意してくれました。出願の際、大澤先生は出願資料を一字一句チェックしてくださいました。迷っていた私に正しい方向を示し、お願いをした際にサポートしてくださった大澤先生には本当に感謝しています。しかし、それでも試験には大きな山があり、学校ごとに試験科目が異なるため、復習の重点も異なりました。専門の本を読みましたが、過去問を見るとやはり焦ってしまいました。日本の試験は中国とはポイントが違っているので、4〜5年間の過去問をやってからまたもう一度ポイントを整理したり、公式をまとめたりしました。有名校の同じ知識点の試験問題を探して、解くことで自分の能力を磨きました。筆記試験以外に、面接もとても重要です、教授に良い第一印象を残すことがとても大切です。岩崎先生との面接練習を経て、志望理由、卒業論文、そして研究計画書、今後の方向性、実用性などについて全ての準備が整いました。そして、2022年9月初旬、無事に東北大学大学院工学研究科に合格し、流体研究所の研究員になりました。

もちろん、私の努力を無視することはできませんが、語学学校で得た言語、学業、生活上の助けもとても多いです。私を育ててくれた亜細亜友之会外語学院にとっても感謝しており、ここで過ごした時間を決して忘れることはありません。在学中私が評価され、卒業式において「亜細亜友之会外語学院第二種進学奨学金」を授与されました。学校の皆様には大変お世話になり、感謝しております。これからも頑張っていきたいと思います、優れた成果で社会に貢献したいと思います。